



浜宮祭 (宗像市神湊)

五月・浜宮祭齋行

風薫る好天の五月五日(こどもの日)、恒例の五月・浜宮祭が宗像市江口の五月宮と同市神湊の浜宮でそれぞれ齋行された。

当日、高向宮司以下神職四名が神湊に鎮座する浜宮へ出向。石祠の御神前に海川山野の幸に加え、「赤飯」「粽」「ガメの葉饅頭」「菖蒲酒」など、端午の節句を象徴する神饌を供え、午前十時三十分、浜宮祭を齋行。当大社責任役員、氏子会会長、地元総代、神湊地区の各区長、地元の方々が参列された。

引き続き五月宮へ移動。大きな常



五月祭 (宗像市江口)

余滴 世界遺産は現在、一国に年間一つしか推薦することが出来ないようになってきている。「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」を本年の候補にしようとする推薦書が提出されており、その国内選考が七月には決定するために、福岡県、宗像、福津市を中心に活発な活動が繰り広げられている。世界遺産に登録されることは大変名誉なことである▼将来、世界遺産登録となれば地域にとっては大きな経済効果となるであろう。しかし世界遺産の本来の目的は登録資産を大切に保存し続けることにある。特に沖ノ島は古代より連綿として現在まで信仰が続ぎ、先人の努力により守り続けられているところに価値があると共に、我々はこれを守っていく義務がある▼宗像で生まれ育った子どもたちが地元を誇りと郷土愛を持ってようになることを願いながら、未来への継承手段として世界遺産登録するのが目的であり、観光目的ではないのが沖ノ島と関連遺産群の登録活動の特徴である。当然、地域への来訪者は多くなるのでインフラ整備を始め受け入れ体制には多くの課題もあるが、宗像は神道の原点である自然崇拜を通しての日本人の信仰形態が色濃く残る場所である。宗像大社に参拝して良かったと思って頂けるように一層の境内の清浄と整備、職員の一層の丁寧な対応が望まれる。(幹)



平成ノ大造営
時満ちて道ひらく

神具・装束・授与品



装束店
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

授与品店
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

緑樹を依代とする神籬祭場で、その前庭に浜宮祭と同じく神饌を供え、午前十一時、浜宮祭参列者に加え、江口区長、福岡県立少年自然の家「玄海の家」の関係者ら地元の方々が参列される中、五月祭が斎行された。同宮は釣川の河口に鎮座し、海からの浜風が往時の「濱殿」を彷彿とさせる心地良い祭典となった。

祭典終了後、五月寮で直会が行われ、奉仕者並びに参列者一同、御神木である榎の葉がしかれた折敷に盛られた赤飯・がめ煮・粽・ガメの葉饅頭を古式ゆかしく栗箸で頂きながら、神人和楽の一時を過ごした。

稲の成長を予祝する神事でもあるこの五月・浜宮祭が終わると、神郡宗像では田植えの準備がはじまり、一面の水田に早苗が影を浮かべながら夏へと木々も緑を深めていく。



五月寮での直会

沖津宮・中津宮春季大祭斎行 筑前大島で五穀豊穰と豊漁を祈念

大型連休中の五月二・三日、沖津宮・中津宮の春季大祭が斎行され、新緑眩しいなか島内はもとより、島外からも多くの参拝者を迎え、筑前大島で盛大に執り行われた。

二日には、境内の装飾、直会等の諸準備が整えられ、境内は清新な瑞気に満ちていた。夕刻には高向宮司以

下、大島に出向した神職・巫女らの奉仕により、大祭に先立ち地主祭、宵宮祭が沖津宮遙拝所と中津宮本殿において執り行われた。

三日は午前八時半より宮崎区の厳島神社、同九時半より大島最高峰の御嶽山に鎮座する撰社御嶽神社にて春季大祭が斎行された。

同九時よりは沖津宮春季大祭が島北側岩瀬の沖津宮遙拝所にて斎行され、海上五十キロ先の沖津宮を遙かに拝し、宮司が祝詞を奏上、浦安の舞も奉奏された。

続いて同十一時、中津宮において春季大祭が斎行され、神職、氏子奉幣使らが本殿へ参進。境内は島内外より多くの



氏子奉幣使 河辺幹夫氏

参拝者でうめられ、本殿前には大島の各漁船からの献魚をはじめ野の幸、献酒が供えられた。宮司の祝詞奏上に次いで、大島の氏子を代表し奉幣使の河辺幹

夫氏が祭詞奏上、巫女により浦安舞が奉奏され、各代表者、また崇敬者多数が玉串拝礼を行った。引き続き高向宮司より昨年の海の幸・野の幸多数奉納者に、感謝状と記念品が贈呈され、祭典は厳肅裡におさめられた。

午後一時半より予定されていた恒例の奉納子供相撲は、早朝からの

尚、この大祭は旧暦の三月十四・十五日と定められている。島民の多くが従事する、漁業も漁止めとされ、島民上げて斎行されており、大祭準備には沖中両宮奉賛会(会長 沖西敏明氏)、同翼賛会(会長 遠藤三保氏)、同敬神婦人部(部長 河辺恒子氏)の皆様が連日御奉仕を頂いた。ここに紙面を借り篤く御礼を申し上げます。



中津宮大祭 浦安舞奉奏

平成27年度

宗像大社奨学金受給生奉告祭 第五十六期を迎え、受給生は延べ九一三人に

史、制定目的、規定、受給方法等についての説明が行われた。その後、生徒一人一人がテーマに沿った作文を執筆し、書き終えた生徒から奨学金支給を受け、境内をあとにした。(この作文は「奨学生作文の御紹介」として紙面6ページにて掲載)

四月二十九日(昭和の日)、の 新受給生二十名で第 奨学金受給生奉告祭が斎行 され、本年度の受給生がご 神前に参集した。尚、今年度 は九一三人にのぼる。

当日は宗像・福津両市

内より受給生約 六十人が保護者 とともに参集。

午前十一時から の昭和祭に参列 後、奉告祭が斎 行された。有為 な人材になる事 を御神前に誓って くれた事と思う。



第56期になる新受給生

祭典後は清明 殿で選定書授与 式と説明会が行 われ、高向宮司か ら宗像大社奨学 金選定書が生徒 の代表に授与さ れ、担当神職より この奨学金の歴



昭和祭・浦安舞奉奏



新受給生に選定書を授与

昭和三十四年の今上陛下御 成婚を奉祝して制定され、 翌年の昭和三十五年第一期 生として宗像市・郡内の中 学校出身者(当時は六中学 校)に支給され今日に至って

いる。現在では宗 像・福津市内十中 学校より各校二名 ずつ選定し三年間 支給している。



奨学金受給生奉告祭

宗像大社奨学金 第56期受給生20名

宮本	大空	大島中	直方高
豊福	真愛	//	福工大附城東高
岩佐	勇汰	玄海中	博多青松高
吉井	美紗	//	宗像高
加留	部涼	日の里中	宗像高
高橋	明日香	//	筑紫女学園高
かみ上	小澤	宗像中央中	香住ヶ丘高
富永	美玖	//	香椎高
倉光	真也	城山中	宗像高
権田	梨世	//	光陵高
村上	史明	河東中	宗像高
吉村	果南	//	福岡高
白木	たつ	自由ヶ丘中	県立八幡工業高
宮崎	なこ	//	新宮高
花田	りょう	津屋崎中	福工大附属城東高
横山	綾香	//	玄界高
高山	竜之介	福岡中	宗像高
大西	莉奈	//	福工大附属城東高
石王丸	貴士	福岡東中	福工大附属城東高
藤田	侑李	//	光陵高

氏八満神社御鎮座 四五〇年 春祭に併せ奉祝祭齋行

当大社が鎮座する田島地区の氏神様を祀る氏八満神社、本年は鎮座四五〇年という奉祝の年にあたることから、凡そ一年をかけて御神輿の装飾や太鼓、子供たちの半被等が新調され、四月十九日、春の例祭に併せ奉祝祭が田島区長をはじめ氏子の方々が参列する中、



御神幸

厳肅に齋行された。

当日は小雨の降る中ではあったが、午前九時半、高向宮司と神職一名により出御祭・鎮座四五〇年祭を齋行、装飾新たな神輿に御神璽が奉安された。白衣・白袴を着けた田島区長・氏子の方々に続き、真新しい半被に袖を通した児童達がリコーダーの音色を響かせながら列を組み、賑々しく御神幸を行い、御祭神を当大社・祓舎に設営された御旅所へお連れした。祭典を終



出御祭・鎮座450年祭 (氏八満神社)

え、再び田島地区を御神幸、正午過ぎには田島公民館に到着し頓宮

祭が齋行され、終了後には鎮座四五〇年を祝い盛大に直会が行われた。午後二時に、御神璽を本殿へお返しする還御祭を齋行、奉祝の記念すべき春祭りを恙無く終える事ができた。

地域の氏神様に対する厚い崇敬心のもと、一年をかけて準備されてきた氏子の方々には、無事に終えた安心からか笑みがこぼれていた。是非この伝統ある祭礼を子々孫々まで継承していただきたい。



駐籠所祭 (宗像大社)

宗像大社菊花会 玄海小・中学校に菊資材を贈呈

去る五月一日、宗像市立玄海小学校体育館にて、今年で十七年目となる恒例の菊資材贈呈式が行われ、一

去る五月一日、宗像市立玄海小学校体育館にて、今年で十七年目となる恒例の菊資材贈呈式が行われ、一

名の前で、当大社の神職・巫女から児童代表へ菊資材が手渡された。



十一月には校内にて菊花展を開催すると共に、当社で行われる第四十五回西日本菊花大会にも出品される。彩り豊かな菊が展示される秋が待ち遠しい。

同校では教育の一環として菊作り栽培に取り組んでおり、地元ボランティア団体「匠の会(会長 小並範義氏)」を始め、地元PTA・教諭一丸となって支援している。この趣旨に宗像大社菊花会も賛同し、菊の肥料や資材を寄贈している。

三・四年生は小菊、五・六年生は大菊、さらに一昨年から中学一年生も菊作りを始めており、夏休みも交代



平成二十七年年度 第一回 氏子会総代総会開催

五月十八日、今年度第一回目となる氏子会総代総会が置鮎会長以下九十二名出席の下、また来賓として阿部弘樹・伊豆美沙子・吉武邦彦県議会議員にもご臨席いただき、清明殿にて開催された。

置鮎会長を議長に、前年度の事業・決算報告、本年度の事業・予算案が審議され、すべての議事が承認され、また、氏子会事業への更なるご理解・ご協力をお願いした。最後に本年度より総代・評議員に新たにご就任頂いた方々への委嘱状贈呈式が行われ、該当者を代表して岬地区の吉村三郎評議員に置鮎会長より委嘱状が手渡された。

された。

置鮎会長より委嘱状が手渡された。総会は無事に終了した。



会長より委嘱状を贈呈

沖西牛男氏(大島在住) 貝細工「昇龍」を奉納

宗像市大島でアワビの貝細工を製作されている沖西牛男氏が去る五月一日、「昇龍」と名付けた作品を当大社に奉納された。同氏は伊勢の神宮を始め全国のお社にも奉納をされており、また同氏の父・保幸氏におかれても当大社に龍の



貝細工を奉納され、此の度で父子二代にわたる奉納となった。奉納された「昇龍」は一度神前に供奉、同氏御夫妻参列のものと奉納奉告祭を斎行、祭典後には高向宮司より感謝状と記念品が贈呈された。

今回の「昇龍」は高さ約四十センチあり、目に使われたオニキス以外は全てアワビの貝殻で出来ており、背面版等には、宗像大社三宮、玄界灘を表現し配置・色彩等細部にわたる繊細な技術と工夫が施されている。牛男氏は「親子二代で奉納ができて荷が下りた。これ以上ない龍が出来たと思う」と語られた。

平成二十七年年度 宗像大社春季奉納囲碁大会

四月二十六日(日)宗像本因坊戦(五・六段者)、宗像大社奉納囲碁大会(初段〜五段)が宗像・福津両市内から一五五名が参集し、斎館・清明殿で開催された。囲碁大会は二十五組一四二名が参加し初段〜五

段を六人一組に別け、各組ごとに優勝者を決定した。宗像本因坊戦は、その年の実力ナンバーワンを決める大会で、五、六段の高校生十三名によるトーナメント形式で行い、熱戦の末、村社好男氏(六段)が優勝を果たした。



御造営奉賛者御芳名

(平成二十七年四月) (順不同・敬称略)

糸島市	二、〇〇〇円	田中 達	國分 一美
札幌市	三、〇〇〇円	山下 和彦	
G E O - I K			
宗像市	四、〇〇〇円	小阪 裕司	
横浜市		後藤捷二郎	
横浜市		小阪志のぶ	
宗像市		久保孝二郎	
防府市		堀江 博子	
福岡市		鈴木須美子	
福岡市		村松美智代	
浜松市		宗像彰、真奈	
練馬区		中谷 則子	
下関市		木村 真也	
呉市		山田 豊子	
京都市		北村 博之	
北九州市		占部 博	
茨木市	五、〇〇〇円	吉田美佐子	
宗像市		田辺 賢	
広島市		山本 彩加	
長門市		大平 美恵	
長門市	一〇、〇〇〇円	目原 敏子	
直方市		目原 芳雄	
直方市	二五、〇〇〇円	目原 健夫	
直方市		目原 明子	

沼田	権田	堀江	榊	永島	古賀	安部	中野	田村	郭	嶺	宗像市	沖西	宮城県	福岡市	福岡市	直方市	直方市	中野区	那珂川町	古賀市	岡垣町	大阪市	大木町	大分市	うきは市	糸島市
敏一	健一	裕明	一明	史章	智己	芳英	順	政則	郁三	俊光	宗像市	牛男	福岡市	福岡市	直方市	直方市	戸川	西住喜一郎	竹村美佐紀	松永 文孝	村瀬 君夫	八山 義博	竹中 千映	田中 聖二	國分 浩一	
七田	磯部	吉武	久田	藤原	平原	西ノ原	小田	久田	浜田	花田	丸井	丸井	平間	川崎	藤田	増田	増田	戸川	西住喜一郎	竹村美佐紀	松永 文孝	村瀬 君夫	八山 義博	竹中 千映	田中 聖二	國分 浩一
勝雅	輝美	倫彦	龍幸	誠	聡	篤	龍	修一	孝浩	定	定	勉	五生	和彦	美子	フジ子	二郎	二郎	一郎	紀	孝	夫	博	映	二	一

宗像大社奨学金 受給生作文紹介

「奨学金受給生として」

福岡高等学校二年 西村 優梨香

私は一年前からこの奨学金を受給し始めました。この一年間は本当に充実していました。福岡高校という学校に入学して、大変なこともつらいことも多くありました。勉強が難しく、成績が思うように伸びなやんだことや部活がうまくいかなくて落ち込んだりしたこともありました。しかし、毎年二回、受給するために宗像大社を訪れたときには、どんなに苦しくてもどんなにつらくても自分は直接出会うことはない宗像市の人々から支えていただいているのだと、周りでいつも見守ってくれる人がいるのだと、そして宗像の神様に見守られ、背中を押されているのだと強く感じる事ができたとともに感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。私がこの高校一年生という時間を全力でかつ有意義に過ごせたのにはこの奨学金も大きく関係していると思います。

今日という日を境にまた新たな一年が始まります。これからさらに勉強は難しく、部活は忙しくなるでしょう。しかし、またつらく苦しい時期がきたときには一度立ち止まってこの奨学金のことを考えたり、周囲に目を向け、気持ちを切り替え努力を積み重ねていこうと思います。

そして近い未来、私を育ててくれた宗像に恩返しができるような人になるためにまたこの一年を全力で過ごしていこうと思います。

「沖ノ島と関連遺産群について」

宗像高等学校二年 福崎 陸

僕の住んでいる宗像には、世界に誇るべき遺産があります。「沖ノ島と関連遺産群」です。僕が生まれるずっと、ずっと前の歴史が今も残っているのです。

沖ノ島の遺跡は今から千年以上も前に行われていた祭祀遺跡です。ここからは土器や装飾品など数多くの品が見つかりました。僕は昔の人が千年以上後にも残るような土器や装飾品を作る技術を持っていたことに驚きました。科学技術の進歩が著しい現在でも、千年も先の未来に残る物をつくることは難しいのではないかと思います。それほど昔の人はものづくりの技術が優れていたのだと思いました。また、出土した約八万点の奉獻品もすべて国宝に指定されていることもすごいと思いました。これは、奉獻品一つ一つが日本にとって大事な文化遺産であることを証明しているのだなと思います。

僕はこんなにも素晴らしい文化遺産が宗像にあることを誇りに思っています。地域の人たちだけでなく、日本中、世界中の人々に沖ノ島のことを知ってもらいたいです。そしていつの日か、日本中の人々がみな、世界に誇れるような文化遺産になることを願っています。

(続)

浜の寄物

300

いしいただし



折尾のY氏から、八幡西区の大膳一丁目に野辺機体当り勇士の慰霊碑の場所を確認したので、ご案内しましょうかと連絡を受けた。

その日は生憎、体調がよくなかったのでお断りした。それから暫らくして体調が戻り、一人でカメラを持ってJR折尾駅に行き、駅からタクシーに乗って大膳一丁目で降りしてもらった。運転手にも尋ねてみたが「知りませんナ」という素っ気無い返事だった。車から降りたところに公園があり、その遊具に座っていたら、犬の散歩している人が通りかかったので尋ねたら、公園の端のところに小さな路がありその一番上まで



行くこと大きな道路に出る。出たところに「体当たり勇士」の案内パネルがあつてそこから少し登ると慰霊碑があるということであつた。これは大



体当り勇士の碑

士「の碑」にたどり着いた。慰霊碑は赤褐色の自然石で、表面は加工されていないので刻された文字は部分的に分かるが、はっきりしないのが大部分であつた。写真も撮つたがよく

変なことになって今更ここで帰ったら二勇士にも申訳ない。なんとしても慰霊碑まで行くぞ、ゆつくりと三段ずつ上がり、深呼吸して休憩。二勇士の加護か心臓。パクパクの動悸もなく、約一時間かけて「勇

間もなく西の彼方に米空軍の要塞といわれたB29大型爆撃機八十余機が地平線上に現われ数個梯団となって北九州を目標に来襲してきた。いよいよ我が戦隊も迎撃隊形に移行し戦鬨の火ぶたを切つた。操縦は少年飛行兵第六期野辺重夫軍曹、戦技(戦闘行動に必要な技術)第十三期高木伝蔵兵長の野辺機は敵の第二梯団長機に対し第一撃を指向三七耗砲の第一弾を発射したが撃墜には至らずこのままならば敵機は北九州に爆弾投下は必至を察知し、これまでと決意、軍人精神を胸に秘め「野辺今から体当り」の一語を残し敵機のやや斜め前方より第二梯団長機を目標にまっしぐらに突進、壮烈果敢な体当りを敢行、一瞬彼我



両機は一塊となつて空中に浮かび更にその爆破片また第二番機に激突され、また瞬時にして空中分解し一機を以て敵超爆撃機一機を葬り、日本戦史を飾る身機一両名は身をもつて皇土の防衛すべく烈々なる責任観念に透徹し崇高なる精神と壮烈なる行動を讃えて皇国軍人の真面目を遺憾なく発揮し、国軍の亀鑑となつたことは、早速上間に達し野辺高木両友は二階級特進の荣誉に輝き悠久の大義に殉じこの地に永眠されることとなつた。」昭和五三年八月吉日 元飛行第四戦隊飛行隊長(少飛第一期)元陸軍大尉 檜出 勇 ※パネルは体当たりとあるが当りが正しい。梯団(ていだん)大多数のとき部隊を分ける。

第六四六回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 宮田 山本 静子
 権幸とは鳥かと思えば木の名とてミツバウツギ科実物見たし
 紅い実の生る権幸を作者同様見てみたい。海にはゴン
 ブイという名の魚もいる。初句(権幸は)に。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
 招かれし新宿御苑観桜会総理のもとに叙勲者集ふ
 晴れの日を記録する一首。桜の美しさやその場の情景
 も別に詠み、連作にされては。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
 聴覚も視覚も衰へ弾き語りつ琵琶盲僧の浄満さんが頭つ
 聴覚・視力が弱ったが、耐えて弾き語りをする作者。
 結句(浄満さん)を思ひに。

宗像市 日の里 大和美由紀
 花冷えにインスタントのあつあつの味噌汁を飲み一息つきぬ
 桜の頃には時に冷える日がある。花冷えとインスタン
 トの味噌汁の取り合わせが今日的で説得力がある。

福津市 若木台 山崎 公俊
 ひとり来れば氏貞公の墓寒し旧正月の木立の中に
 宗像氏最後の領主氏貞公の波乱に満ちた生涯を思う作
 者か。その思いが三句に籠っている。

宗像市 多禮 早川 祥三
 もどれない島をつくりし國なれど自虐の民のつくりし島よ
 島名が分からないと鑑賞ができない歌。この歌の一番
 大切な部分なので、島の名を入れて再考を。

福津市 若木台 野間 精一
 久末ダムのめぐりに桜咲き初めて君は見すると腕とりくるる
 体を支えて桜を見せようとする(君)への感謝が籠る。
 ダムの名が効いてリアリティがある。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
 ひとつのごとくに話していたれどもいつ当事者になるかも知れぬ
 その通りだと相槌を打つ。何の当事者なのかが分かる
 と更に切実さが出るだろう。

北九州市 門司区 北野カズミ
 めんだうなメールをやめて電話にしその声を知る嫁の風邪ひき
 メールは苦手なので、共感する。電話でなら声で分か
 ることもあるという発見が良い。

宗像市 池田 森 龍子
 満開の桜よ昨夜の吹き降りに無念と思ふまでに散り敷く
 桜が一夜で散る悔しさ。二句(桜が)とし四句切れに。
 四句・結句(土に散り敷く無念なるまで)。

宗像市 田久 巻 桔梗
 スポンジの上ゆくごとく髪ゆらす新女子社員にはや初夏の風
 三句以下が爽やかで魅力的。初・二句は弾むように歩
 く比喩としてはやや疑問。

◆ 選者詠
 関西と九州のことばひびきあひ肥後黒川の露店湯まひる
 なにもかももう遅すぎるとおもふ夜半窓をあければ薔茉莉の香

第六一九回 俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一
 小川とて春を迎えて喜ばん
 宗像市 多禮 早川 祥三
 初刈りの若布ととのう費の島

6月祭事暦

1・15日 月次祭
 午前10時～
 高宮祭 第二宮・第三宮祭
 引き続き 宗像護国神社祭
 月命日祭(1日) 巡 拜(15日)
 午前11時～
 総社祭 浦安舞奉奏(1日)
 豊栄舞奉奏(15日)

編集後記

先日、宮崎県えびの市で行われたハーフマラソン大会に出場し、なんと完走しました。約二ヶ月前に練習を開始。膝に負担をかけないように歩くことから始め、徐々に走る距離を増やし、開始直後に三桁の大会に乗っていた体重も、二ヶ月経った現在では八十キロ台へと落ちました▼「あー苦しい、きつい、もう二度と走るもんか!」走っている最中は常にこんな思いでいっぱいでした。それでも、ゴール出来たのは炎天下のなか沿道で応援して下さった皆様、おじいちゃんやおばあちゃん、小さな子供達の声援でした。地道に練習をした成果ももちろんあったと思います。しかし、レース後半の疲れきった時の「頑張れ」の声は心に沁み、止まりそうな足への原動力となりました▼個人スポーツ、自分と戦うスポーツで、最後は他人の力に救われました。人と人の繋がりを、力を実感したそんな大会となりました▼次は十一月の福岡マラソンに挑戦します。(当選すれば応援宜しくお願いします。)(鈴)

発行所 宗像大社事務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五 福岡県宗像市田島二二三一
 電話 (〇九四〇)六一二二二二(代)
 発行人 葦津幹之
 編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
 制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円